

週日の説教

金 大烈 神父 2010年2月23日(火)

《祈りは自信を持って》

福音に入る前に第一朗読(イザヤ 55・10 11)のイザヤの預言書で語られた言葉についてお話ししたいと思います。みんなが分かっているのにもかかわらず、あまり気にしていないことが書いてあるのではないのでしょうか。

「雨も雪も、ひとたび天から降れば

むなしく天に戻ることはない。

それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ

種蒔く人には種を与え

食べる人には糧を与える。」

私たちがむなしく神様に帰るような人生を過ごしたくはないですよ。この言葉の雨や雪のように、何かを实らせる役割をこの人生ですべきではないのでしょうか。私たちがこの世に生まれた意味は何か、使命は何かと試してみました。もし私によって潤される大地があれば、潤される人の心があれば、そういう人々に何かができれば、私たちはむなしく帰ることはないでしょう。むなしく帰らないように、必ず何か役に立って帰れるように、努力をすることが毎日毎日必要ではないかと思いました。

今日の福音(マタイ 6・7 15)の内容は、『主の祈り』の話ですよ。『主の祈り』については、勉強会で私が一文字一文字全部、神学的に説明する日が来ると思います。どのくらい意味深い祈りであるか、その時に詳しく説明します。今日の福音では、イエス様が神様について「**あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。**」とおっしゃっています。ということは、何かを願う前にすでに私たちの心を全部読んでいらっしゃる、ということですよ。だから祈りというものに自信を持つべきだと思います。

たとえばある人は、指に傷がついたとき、「血を止めるための絆創膏をください」と祈っています。これは祈りではありません。「指を治してください」と祈るべきです。なぜ絆創膏をくださいと祈るのですか。そのくらい神様に対する信頼感がないのでしょうか。何かを願うときには、自信を持ってはっきりおっしゃってください。それが祈りです。「聞いてくださるだろうか」という半信半疑の気持ちで祈ったのでは、祈らなくてもできるものさえできなくなります。ですから何かを願う祈りをするならば、自信を持って、「この方は私の全てのことをご存じなのだ」という心でその思いを表してください。聞いてくださいます。

そして、『主の祈り』の中の『誘惑』という言葉が目に入りました。皆様『誘惑』とは何でしょうか。たぶん全ての人にとって『誘惑』となるものがあるでしょう。そして人によって違う『誘惑』もあるでしょう。皆様が一番負けやすい『誘惑』は何でしょうか。勝ちにくい『誘惑』は何でしょうか。そ

の『誘惑』について、黙想してみるのも大事なことだと思います。私にも負けやすい心があります。そしてそれに慣れてしまうこともあります。いつも負けているにもかかわらず、そんなに深刻に考えていないこともあります。たとえば『憎しみ』が誘惑だったとしましょう。誰かを『憎む』癖があり、何でもないのに『憎しみ』が生じるとしたら、その時皆様はどうしますか。一番良い方法は何でしょうか。

いろいろな『誘惑』があると思います。死ぬときまで『誘惑』に襲われると思います。その『誘惑』に負けない唯一の方法、それはイエス様が教えてくださったことです。誘惑に負けないように祈ることです。祈りましょう。その方法しかないことを今日の福音を通して考えてみましょう。そして何よりも本当に謙遜な人になってほしいです。謙遜な人は、相手が間違えても腹を立てません。私のように未熟な者が、腹を立てたときにすぐ顔に表すのです。腹を立てる前に相手の立場になって、なぜその人がそのようになったのか、そのような反応を見せたのかをよく考えるのが謙遜な人だと思います。

腹を立てようとするれば全てのことに腹が立ちます。「腹を立てない」という気持ちがあれば、腹を立てる必要のあるものはほとんどありません。どういう人が知恵のある生き方をしているか、よく考えてみましょう。

ありがとうございました。